

2015 年度秋学期 日本理解に関する科目・授業概要

	授業科目名 Subject	担当教員 Lecturer	期・曜・教 Period, Classroom	目標 Aim	内容とテキスト Course outline, Textbook
日 本 理 解 *	日本理解B (教育)	小林正泰 (こばやし まさひろ)	木・2 N202	本授業では、現代の教育改革動向をはじめ、いじめや不登校などの教育問題、近現代日本の教育の歴史など、日本の教育を理解する上での基礎的な事柄を学びます。	【内容】近年日本の教育は、様々な教育改革が矢継ぎ早に実行され、大きくその姿を変えようとしています。その背景にはメディア等を通じて報道される「教育問題」がありますが、その問題はなぜ「問題」なのか、あるいは本当にそれは「問題」と言えるのか。簡単に理解できることではありませんが、テキストを読み、受講者の皆さんの国と比較し、議論をしながら一緒に考えていきたいと思います。 【テキスト】池上彰『池上彰の「日本の教育」がよくわかる本』(PHP 文庫、2014 年) 【評価方法】平常点 50%、発表・レポート 50%
	日本理解D (人文)	千田洋幸 (ちだ ひろゆき)	月・5 S105	主に 1990 年代以降のアニメを中心とするポップカルチャーを取り上げながら、日本の文化・社会のあり方について考察していきます。	【内容】前半は、ここ 20～30 年ほどの定番アニメ作品を取り上げ、その思想的系譜をたどっていきます。後半は、ポップカルチャーについて考える際に欠かせない「オタク」「キャラクター」「腐女子文化」「日本的想像力」等の概念について考えます。 【テキスト】特に定めませんが、『美少女戦士セーラームーン』『新世紀エヴァンゲリオン』『涼宮ハルヒの憂鬱』『魔法少女まどか☆マギカ』等の著名なアニメ作品は、なるべく開講前に観ておいていただくと、授業にスムーズに参加できます。 【評価方法】平常点 50% レポート 50%
	日本理解F (社会)	加藤 拓 (かとう たく)	金・2 N202	日本で習慣化した消費行動、日本で最近ヒットした商品や流行現象などをとりあげ、その社会的背景や企業行動を理解する。	【内容】講義のはじめに日本で定番化した商品や、いま流行している商品、消費現象に関する話題を紹介し、その理由を社会的背景や関連する企業の行動を中心に説明します。日本人にものを買ってもらう方法を少し理解できるかもしれません。受講生の皆さんには、自国の似ている例を紹介していただき、日本の場合との共通点や相違点を発表していただく予定です。楽しいクラスにしましょう。 【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点 50%、発表・レポート 50%
	日本理解H (芸術)	石井 健 (いしい たけし)	金・3 **書道演習室	この授業科目では、日本の文字文化を中心に考察していきます。本年度は、毛筆の実技を中心にしながら、書道や文字に関わる文化について幅広く学んでいきます。	【内容】日本の文字文化の基礎となる中国の書道の歴史を学んだのち、「ひらがな」や「カタカナ」も含め、日本の書道の歴史や文字文化について、筆や墨を使って文字を書く書道実技を中心にしながら勉強していきます。テキスト、鉛筆などの筆記用具、毛筆の道具等は各自で購入してもらいます。 【テキスト】授業中に指示します。必要に応じ、資料を配布します。 【評価方法】平常点 50% 提出物 30% レポート 20%

*「日本理解A・C・E・G」は、春学期に開講します。「日本理解」の授業内容は、「留学生センターホームページ」からも見られます。

**書道演習室は 芸術・スポーツ科学系研究棟4号館2階 にあります。

多 文 化 共 修 科 目 ***	多文化共修科目 B (多文化社会とコミュニケーション)	岡 智之 (おか ともゆき)	月 1 N313	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 B 「多文化社会とコミュニケーション」では、多文化社会に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。	【内容】前半は多文化社会に関わるトピックに関して、基本的な知識を学び、ディスカッションを通して深める。ゲストトークや講演、スタディツアー、映画鑑賞などの課外活動も取り入れる。後半は、グループごとに多文化社会の問題解決を目指すプロジェクトを企画し、発表し、報告書としてまとめる。1. オリエンテーション、2. グローバリゼーションって何？、3. グローバル化と言語教育、4. 多民族ニホンを生きる、5. 在日コリアン問題、6. 沖縄から平和を考える、7. 中間発表—〇〇から〇〇問題を考える（自分の国・地域の問題を発表）、8. 地域における多文化共生（ゲストトーク）、9. 見えない世界のコミュニケーション（ゲストトーク）、10.11 プロジェクト構想と発表、12,13,14. プロジェクト発表、15. 振り返りと全体まとめ 【テキスト】特に定めません。 【評価方法】平常点 30%、発表 30%、最終レポート 30%、課外活動 10%+α、最終レポートは A4 用紙 3 枚程度、締め切りは 2 月 15 日（月）担当者にメール添付で送ること。
	多文化共修科目 D (世界の民族と文化)	佐伯英子 (さえき えいこ)	木 1 N313	多文化共修科目は、留学生と日本で生活してきた学生とが交流し、共に学び合う場です。今年度の多文化共修科目 D では、「世界の民族と文化」をテーマに、世界の多様な生活習慣、風習や考え方について理解を深め、異文化を学ぶ意味と視点を考えます。実際に調査、発表する中から民族や文化に関する知見を深め、知識を共有することから共に学ぶことを目標とします。	【内容】授業は講義、ディスカッション、ワークショップ、グループワークなどの形式をとりながら進めます。内容は、文化とは何か、民族というカテゴリーはどのようにしてつくられるのかというトピックから始め、まずは私たちが現在住む日本を例に考えます。その後はテーマに沿った講義とグループワークを中心に行います。さまざまなバックグラウンドをもつ学生の協働学習、アクティブ・ラーニングの場です。交流を深め、積極的に意見交換をし、考えや学びを形にしていく意欲をもって参加してください。 【テキスト】特に定めません。必要に応じ授業中に配布します。 【評価方法】平常点 30%、リサーチプロジェクト 70%（課題 20% 発表 25% 最終報告書 25%）

***「多文化共修科目 A・C」は、秋学期に開講します。シラバスは「大学ホームページ>学内ネットワーク>シラバス検索」でも見られます。